

河川利用について (Q8、Q9)



八戸川では釣りや散歩、カヌー教室などが行われ、支流の玉川では生き物調査が行われています。また、上流の八戸ダムの水は、農業用水や発電用水に利用されています。

河川の維持管理について (Q10)

八戸川流域の河川空間は、地域の住民や観光客によってさまざまに利用されている一方、毎年地元のみなさんによる川の流れる道筋の草刈りや、漁業協同組合員による河川の清掃などの維持管理も行われています。

雨量や水位情報の提供について (Q11~Q13)

◎洪水による被害(ひがい)をなるべく少なくするため、インターネット等によるリアルタイムの河川の水位や雨量の情報を提供しています。

・「島根県水防情報システム」は、下記のURLにアクセスしていただくか、または、島根県ホームページのトップページより移動していただき、ご覧ください。

<http://www.suibou-shimane.jp/pc>



・しまね防災メールの登録は、下記のメールアドレス宛またはQRコードから読み取れるメールアドレス宛に空メールを送信してください。

bousai-shimane@xpressmail.jp



◎また、危険箇所や避難場所を示したハザードマップの普及を推進し、日頃から防災意識の向上を図ります。

お問い合わせ先

島根県土木部河川課
島根県浜田県土整備事務所

企画調査グループ
土木工務第三課

電話：0852-22-5647
電話：0855-29-5658

“江の川水系八戸川流域”の川づくり

アンケートにご協力ください

★このリーフレットは、江の川水系八戸川流域の川づくりを考えるために、今後の治水対策の方針や河川環境、河川利用等の現在の状況を簡単にまとめたものです。アンケートの項目について、わかりやすく説明しています。

過去の洪水被害について(Q3)

平成25年8月 豪雨の状況

桜江観測所で観測史上最大となる雨量を記録しました。(総雨量474mm) この雨により、枕の滝川や玉川などの支流があふれ、108戸に被害が生じました。



長尾地区の堤防がこわれた



玉川があふれた

平成30年7月 豪雨の状況

江の川上流域の雨により、江の川水位が上昇し、八戸川の堤防をこえて水があふれました。

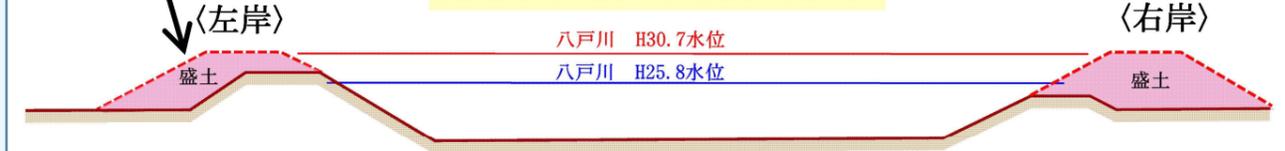
これにより、桜江町小田、川戸、今田において53戸の家などが水につかる被害が発生しました。

そのため、堤防をこえたところ(約1,200m間)を、「河川災害関連事業」によって、下の図のとおり最高水位まで堤防を高くする(盛土)工事を約3ヶ年で行います。



浸水状況

断面図 (上流から下流を見る)



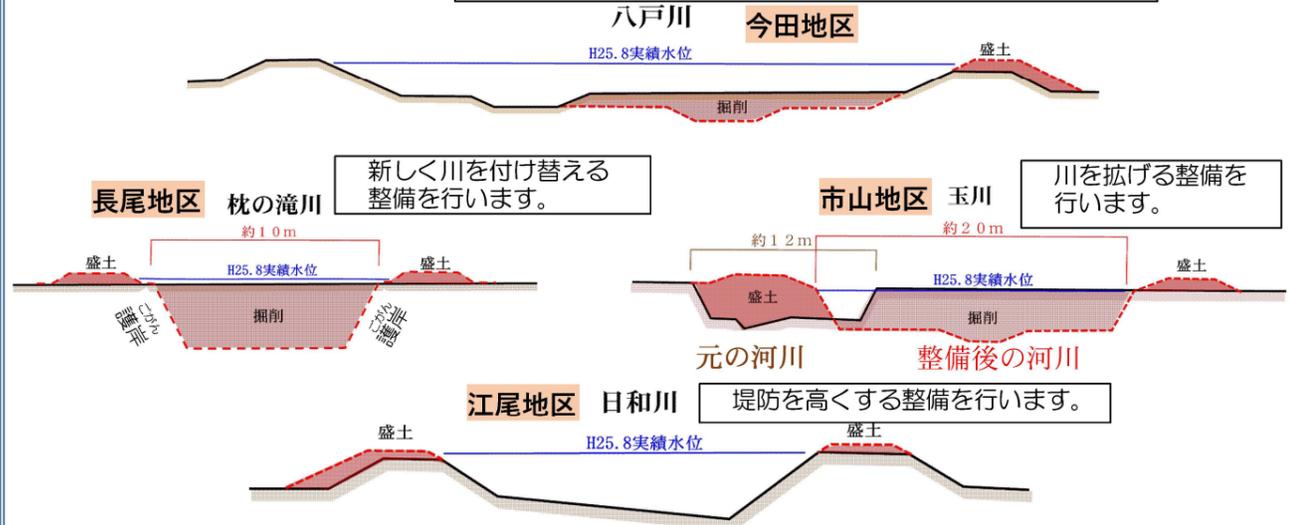
八戸川の河川工事について(Q4)

平成25年8月のような洪水が再び発生しても、水に浸かる被害を防げるように、平成30年7月河川災害関連事業とあわせ、川幅を大きくしたり川底を掘るなどの工事を行います。



イメージ断面図

堤防を高く(盛土)し、川底を掘る(掘削)整備を行います。



※上の図は現時点での整備(案)であり、今後変わる可能性があります。

身近な川について(Q1, Q2)



河川環境について(Q5~Q7)

八戸川は、生物の生息に良好な浅瀬と山付きの淵が混在し、寄州(よりす)は鳥などのねぐらになる草地と、湿地植物が生える水際の河原など、多様性に富んでおり、オヤニラミなど将来絶滅がやむばまっている貴重種も多いのと同時に、外国からの移入種であるオオキンケイギクも確認されています。水質は、江の川より良好で、きれいな川にすむカジカガエルも確認されています。

